

令和7年度第2回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和8年1月7日(火) 14:00～

場所：北広島町役場本町 201 会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

町長

みなさん、おはようございます。

本町は、第2次長期総合計画に基づき、「新たな感動・活力を創る北広島 人がつながり、チカラあふれるまち」を目指し、町政運営に取り組んでおります。

令和6年度も引き続き「協働のまちづくり」「ひとづくり」を中心に施策を進めながら、「北広島町DX加速化戦略」による「DXの推進」、「スマート農業が実現できる環境づくり」、「ゼロカーボンタウン実現に向けた取組」として再生可能エネルギーの導入や住宅等の省エネ化などに向けた補助金の創設などに取り組んでまいりました。また、きたひろ学び塾やスポーツフェスタ、チャレンジデーなどのスポーツを通じて、担い手育成や地域の活性化も目指してきたところです。さらに、まちづくり会社はなえーるの活動により、ふるさと納税の返礼品を通して本町のPRとともに地域資源の開発に取り組んでおります。

委員の皆様には令和6年度に実施した事業についての施策の評価・検証について忌憚のないご意見をいただきますよう、お願いします。

3. 委員紹介

奥田委員、上原委員、東委員、池田沙織委員、山城委員、濱田委員 欠席

4. 議事

(1) 令和6年度事業の評価・検証について

委員

内部評価は具体的にどのように行われたのか。長期総合計画そのものの評価はいつ行うのか。PDCAサイクルと言われたが、今回の意見がどう反映されるのか。

事務局

内部評価は本日資料の成果シートである。計画全体の評価は次回以降の委員会で議論することを想定している。

委員

計画の組み立てからどうするか考える必要がある。現行の計画は総花的であり、どんな意味があるのか、同じことを今後 10 年間続けてもいいのか考えないといけない。

事務局

現行の計画ありきで進むつもりはなく、これまでの 10 年間で継承していくのか、もっと違うものを作っていくのかは当然検討しなければいけない。

委員

資料が膨大で委員が全て読み切れないのではないか。事業費 54 万円の事業も主要施策として掲載されている。もっと絞っていただかないと委員が咀嚼できないのではないか。取捨選択をして提示をしていただきたい。

事務局

提出資料は決算の議会提出資料を流用しており、簡素化も図っているが、100 ページを超える分量になってしまっている。合併してからの積み重ねもあり、年数がたつにつれ若干形骸化している部分も感じるので、取捨選択については次回以降の課題としたい。

施策分野 1 活力ある産業の創造と成長

委員

「農業振興事業（産直野菜振興事業）」で「小規模生産者を支援」が目的となっているが、その支援がどうだったのか、課題に位置づけがない。

きちんと書いている事業もあるが、事業の目的が支援することになっているが、それは事業手法である。支援してどうなろうとしているのかを目的として掲げないと課題が見えてこない。統一的な指導を行い、各課が目的意識を持って事業展開されるようにすべきではないか。

事務局

適切な目的、成果、課題になっていると言われると、過去にも指摘いただいたところであるが、各担当に指導をして徐々に改善している状況である。継続して指導しながらどういう体制になっても同じ行政運営ができるようにしていきたいと思っている。課題として受け止めている。

委員

資料を読んで、どういったことが地域で起きたのか、住民のニーズはどうか、地域との関連性などの把握ができなかった。KPI 以外で成果や変化を読み取るのが難しい。総合計画は大事なもののので、次

につなげるためにどう改善すればいいか読み取れて、委員が評価しやすいような工夫がほしい。

事務局

この様式は事業目的、達成度、課題を示して、次の年に改善することを意図して作成している。委員ご指摘の住民ニーズは目的に組み込まれるべきもの。見えやすいように工夫していかないと考えている。

委員

私なりのイメージでは、長期総合計画は大きな木の幹で、そこから産業だったり教育だったりの枝が伸びている。その枝の先には各事業という葉がついていて、今回の資料はその葉全てが網羅されているので、枝ぶりの評価ができないという指摘だと思う。事務局もその課題は認識されている。

住民の意見をどう反映させるのかも難しい課題である。

先ほどの成果シートでも事業成果に「生産意欲の向上が図られた」とあるが具体的にどうやって評価したのか。気持ちを測定するのは難しい。職員にもスキルアップしてほしい。

事務局

精度が高いものができるよう引き続き取り組んでいきたい。

委員

成果指標も見なければいけないが、全体予算のなかで事業が主要事業なのか仕訳が必要なのではないか。予算の分配はこの施策分野、個別事業にごとにされるのか。前年との比較ができればいいのではないか。成果、KPIがどの程度増えたのかが見えるのであれば、ではそれを増やそうとかの議論ができるのではないか。

事務局

全体予算は項目ごとにそういった仕訳をしていないが、当初予算段階ではしており、その中で主要事業を示すやり方をしている。決算ベースでの整理はしていない。

効果が見えないから必要ないというのも一つの意見と考えている。

委員

行政が取り組む事業は基本的に必要なものを行っている。担当課が必要なものを要求して、予算課で査定をして、積みあがったものが予算になっており、最初に予算の枠がありきではないと認識している。

事務局

大規模自治体では先に枠を決めて予算配分を考えているところもあるが、ご指摘のとおりで北広島町は積み上げ方式で予算査定をしている。

必要な予算か位置付けが見えないというご意見をいただいて改善できるようにしていきたい。

委員

ビニールハウスの設置の補助は助かっているが出荷者協議会が高齢化しているので若返りできるような支援が欲しい。

事務局

農林課中心に道の駅と協力して声掛けしているが、目に見えた効果が出づらいと感じている。

委員

「水田農業推進対策事業（地域活性化支援事業）」では課題で、「減農薬、有機肥料の活用が生産量の減少懸念があるので広がっていない」とあるが、減農薬、有機肥料を使えば収穫量減以上に付加価値がつくのであれば取り組むだろう。誰のための事業なのか考える必要がある。スマート農業でも、「想定以上に収量が多い結果となった」のであればこれは効果があったと考えられる。

施策分野2 にぎわいと活気に満ちたまちづくり

委員

「町有住宅管理事業」では課題で「老朽化が進んでいる」とある。今後も町として町有住宅はずっと維持していくのか、考え方を教えて欲しい。

事務局

戸数についてはニーズに沿った形と考えている。確保すべき公営住宅の数というのもある。財源も限られているので老朽化にどこまで対応していくかは今後の検討課題である。

委員

住宅は民間に任せた方がいい場合もある。それも検討したうえで町で確保すべきであるなら、しっかり修繕していく。そういう議論をしていけばよい。

委員

「施策2-5 移住・定住を促すPRと受け入れ態勢の強化」ですが、豊平地区でも移住に関して空き家探しやマッチングにグループや個人で取り組んでいる。町の賑わいのためにも移住定住には力を入れて欲しい。KPIの定住者数をもっと伸ばしてほしい。暮らしアドバイザーが2人配置されているとのことだが、どういった活動をされて成果に繋がったのかも教えていただきたい。

事務局

日本全体で人口減少が止められない流れであるが、関係人口など、町内外に関わってもらえる方を増やしつつ、これまで通り移住定住にも力を入れていきたい。暮らしアドバイザーはまちづくり推進課に常駐し空き家バンクの案内や定住フェアへの参加などを行っている。移住定住を促進するためには、色々な要素があり、子育て環境であったり、インフラ整備であったり、町の各種支援制度も含めて発信していくことが必要で、一つ一つの評価は難しいと思うがこれを進めていくためにはどうすればいいかとい

う視点を持ってご意見をいただきたい。

委員

暮らしアドバイザーの活動が知られていない。今後の施策展開の中で反映されないといけない。

交流の拡大も政策の方向性として掲げていくべき。観光は地域経済や事業者の利益が目的で、移住定住に直結するものではない。移住定住を目的として明確にするのであれば、採算を求めるものではない。

委員

同じ交流事業でも目的意識を持って実施すべき。

KPI で社会動態がプラスになっているのはすごいこと。委員さん含め地域でがんばっておられることの積み重ねが数字になっている。

委員

学びというのは魅力の一つ。芸北地域振興協議会では「学びの郷 芸北構想」を作った。高校の魅力化では地域と学校をつなぐのが大事。人材は居るが、コーディネーターとして配置する予算がない。図書館は物価高騰で図書の購入が難しいと聞く。知の拠点としての機能をしっかりフォローしてもらいたい。各地域づくりセンターでは「となりの達人に教えてもらおう」など講座を各エリア工夫してされているが予算が少ないと思う。地域ならではの取組にしっかり支援していただくことで、地域の中の学びも生まれる。学校教育と社会教育にしっかり取り組んでももらいたい。

委員

学校と地域の連携は重要。地域の方に指導していただいて助かっている。教育委員会とも連携させていただいている。千代田でも地域コーディネーターのような取り組みがあればよいと思う。

委員

教育をこの長期総合計画でどう位置付けるかは重要だと思う。

事務局

高校支援は前から取り組んでいる。形骸化しないようにしたい。高校は県の管轄なので町が支援するのは地域振興などプラスアルファの目線で行っている。地域の方のご意見を尊重していきたい。図書館も充実した投資をしていくのは難しいが、物価高を加味しながらニーズに応じて対応していきたい。地域づくりセンター、社会教育全般はマンパワーに頼っているのは感じている。

事務局

各地域で作られているビジョンを行政の事業と融合させ、行政が寄り添い、地域住民の方も一緒に活動する協働のまちづくりを長期総合計画の中に位置づけていく考え方もあると思う。

委員

Iターン者にアンケートを取ったら、口コミで知ったとか色々な意見があったが、ホームページが分かりづらいという意見があった。図書館でもまちづくりセンターでも良いものを分かりやすく伝えることが重要。移住でも暮らしに関する事とか学校に関する事とか一つで見れて、見える化されればそれが移住につながる。

ほかの自治体ではホームページで補助金のシミュレーションが出来たり、工夫されているのにここ何年も変わっていない。

事務局

発信力が弱いのは課題として感じている。SNS含めて発信力を高めていきたい。

委員

旧町を超えた地域交流の拡大は重点的な取組として位置付けられているのに、明確に結び付けられている施策がほぼ無い。事業展開していくうえでの体系的な位置付けができていない。成果シートでも課題問題点が毎年同じ文言が記載されている。真の課題だと認識されていないのではないか。

事務局

紐づけが弱い部分があることは認識している。

委員

長期総合計画の重点事項を各部署が理解して事業展開をしていかないといけない。

事務局

成果シートの書き方と同じで、職員にしっかり認識してもらって町一丸で進める取り組みをしていきたい。

施策分野3 安心して元気に暮らせる地域の創出

委員

施策3-1の施策の方向性と、施策が直接に結び付いていないと感じる。「積極的な社会参加ができる地域づくり」は、例えば民生委員の福祉活動で円滑になるのかと思うが、地域の皆さんの活動で地域づくりの活動に生活困窮家庭の方も入っていただけるような後押しをするための政策と並列している理解でだろうか。

事務局

ご認識のとおりではあるが、地域で生活をしていただくために必要な主な事業として5つ掲載しており、広く捉えれば事業はほかにもある。

委員

「福祉委員（民生委員児童委員）活動事業」の課題で民生委員の欠員があるが、これは初めてなのか。民生委員は大切な人だと思うので、この課題に対して来年度どう取り組んでいくか、真摯に受け止めて、積極的な政策展開をしていただきたい。

事務局

一番わかりやすい課題なので来年度考えるべき問題点としてあげている。

委員

欠員が過去からあって、それが問題点だと認識しているのであれば、目的、KPI に設定するなど必要なのではないか。

事務局

目的は大きなテーマ的なものをあげているが、いわゆる PDCA サイクルでやっていくうえでご指摘のとおりなので、成果シート様式含めて検討したい。

施策分野4 生活基盤の強化・強靱化

委員

「バス運行事業」について聞かせていただけますか。

事務局

町域が広く、交通移動手段としてバスを欠かすことができませんで行っているが、予算的には大きな金額となっている。現場でも努力して効率的な運行に取り組んでいただき数年前よりはかなり経済的な運行ができるようになった。運行事業者で子どもの見守りなどもしていただいている。また、利用者が少ないのは大きな課題。通学での利用者はあるが、一般利用が数えるほどしかない。経常的な費用がかかっているので財政的な目線では課題。

委員

海外では無人タクシーが運用されている国もある。国内での見通しはつかないが、交通不便な土地でも移動確保できる時代がいずれ来る。それまで町民の皆様の移動確保のため続いていくと思う。

委員

令和5年度にAI配車システム導入とありますが改善の効果はありますか。

事務局

従来は電話で予約受付、人に対応して配車していたが、スマートフォンで予約出来て、自動で配車管理もできるようになり、受付センターを1か所に集約することができた。高齢者が多いこともありスマートフォン予約の利用率はなかなか上がっておらず、地域づくりセンターで講習会を行っている。高校生

など若年者には利用いただいている、使い勝手は良くなったと思う。

委員

公共交通は「欲しいから走らせろ」の時代ではない。サービスを提供する方も、受け取る方も歩み寄っていないといけない。病院の通院も5、6人であつまって使うなど、利用者の意識を変えていかないと続かない。2億6千万円の一般財源がかかっている、使っていない住民も多くいるのだから出来るだけコンパクトにしていけないといけない。

事務局

利用者の意識も、事業者も、行政も三者で考えていく必要がある。事業者も人手不足の課題もある。行政も費用対効果があるのか考える。利用されない方は反対の意見も出てくるので、全体で考えていく必要がある。

施策分野5 住民のための行財政運営

委員

「きたひろ地域自立支援プロジェクト事業」の課題で「効果の確認が必要である」とある。難しいと思うががんばって欲しい。

「ふるさと寄附金事業」で2億円を超えたのは成果。ふるさと納税は事業者の支援にもなるのでがんばっていただきたい。

「コミュニティ振興対策事業」で地域おこし協力隊の定住の実績はどの程度でしょうか。

事務局

定住に結び付いていない課題がある。活動内容が生業の自立になっていない。担い手不足、後継者不足の課題があるので、生活できる基盤を示して、自立できる地域おこし協力隊員になってもらえるよう見直しをして取り組んでいく。

委員

それを聞いて安心した。地域おこし協力隊の方は自分の生活をかけて来られるので、期間が終わったら終了ではなくて、来ていただく以上はその先の人生も面倒見るくらいの覚悟がないと駄目だと思っている。

委員

移住希望の方の窓口として地域づくりセンターに地域おこし協力隊を置いて欲しいとお願いしてきている。地域おこし協力隊が盛り上がっている地域は移住者交流も盛ん。

地域おこし協力隊でこんな人材が欲しいという提案ができていない状況なので、地域や民間も含めて一緒にできることを提示していかないと人は集まらない。

地域おこし協力隊を増やして、意見も取り入れながら町を盛り上げてほしい。

事務局

定住できる基盤を作り、取り組む事業を明確化して取り組んでいきたい。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用した事業の実施状況と取組

成果について

委員

業務委託費で細かい数字が計上されているが、どうやって算出されたのか。

事務局

プロポーサルで決定された業者から提出された内訳によるものです。

委員

先ほどの主要施策の成果シートが作成されていない事業があるが、加えるべきではないか。

委員

直接関わる部分ではないかもしれないが、食育の充実に取り組んで欲しい。地元の食材がおいしいと思わせれば将来北広島町に帰ってくるかもしれない。将来への投資と思ってほしい。

事務局

地産地消についてはその考え方も含め取り組んでいる。

委員

お米に関する事業が2つあり今年度で終了する。私自身事業者として参加しているが体感として厳しいと感じている。効果や今後どのように持続していくのかお伺いしたい。

事務局

まちづくり懇談会で北広島町の美味しいお米のPRに力を入れてほしいとご意見があり、お米グランプリの開催や交付金を活用して情報発信やブランド化に取り組んできた。再圃場整備やスマート農業で儲かる農業をやっていこうとしている。シビアな目線のご意見も踏まえながら事業を繋げていきたいと思っている。

委員

お米がおいしいのは水がおいしいのもあると思う。東京から来た方が持って帰るくらいだ。柔らかい水で化粧水にも良い。そういう目線で発信しても良いのでは。

(3) その他

委員

高齢者が元気なまちにしてほしい。免許返納しても移動できるのは必要なことだと思う。高齢者に優しいまちであって欲しいと思う。

委員

町とコラボしている事業もある。もっと魅力あるものをしっかり発信していきたい。そこで移住者も増えればよいと思っている。

委員

交付金活用事業の、教育、お米のブランディング、観光は象徴的な三つの課題だと思う。私の通っていた高校も合併でなくなった。教育は地域活性化の拠点。花田植はユネスコに選ばれているし、まだまだ盛り上げて行けると思っている。

委員

国土調査は森林整備のためにも必要。困難なのは理解しているが、リモートセンシングにも期待している。これが進めば森林景観的にもよい森づくりができ、町内の活性化にもつながると思う。

委員

私の周辺ではインターネットで空き家を見つけて移住される方が増えた。空き家が減ったと感じる。

委員

色々な意見があったが、みなさんと一緒になって地域を超えて連携して進めていければよいと感じた。

委員

広報誌に決算報告がされるが、金額の羅列になっている。成果と課題を公表してほしい。テレビで議会中継を見ているが議案が公表されていないので、議論の中身が分からない。

5. 閉会あいさつ

副町長

活発なご意見をいただきありがとうございます。これからは計画本体の策定になると思いますが、委員長も言われた木の幹の部分をしっかり議論していただき、ご意見いただき長期総合計画を策定していきたいと思っております。

6. 閉会